

統計茨城

昭和45年 2 月号

目次 CONTENTS

I 統計ろんだん.....	1	III 過疎地帯の移動人口実態調査結果 について.....	16
II 指標		IV 生活水準測定の問題点(2).....	19
主要経済指標.....	2		
1 人口.....	4		
2 金融.....	6		
3 農業.....	8		
4 鉱工業.....	9		
5 労働.....	10		
6 物価.....	12		
7 家計.....	14		

利用上の注意 Note for Users

1. 本書中の数値は原則として単位未満は四捨五入。
2. 年度は4月から3月まで。
3. 記号
 - 零または該当数字のないもの。
 - 0 該当数字が掲載単位未満のもの。
 - … 不詳のもの。
 - p 暫定数字。
 - r 訂正数字。
 - △ 減少または支払を示す。
 - ※ 統計保護のため掲載をひかえたもの

調査員に思う

2月25日、下館市統計調査員大会が松岡市長はじめ関係者多数出席のもとで開催された。大会は盛大に進行して、表彰を受ける者、それを拍手で祝う者、ともどもに喜びを分かち合ったのである。大会に出席した私たちにとって、直接調査員に接し盃を交えながらその労苦のほどを談笑のなかで話し合うときほど、統計という仕事が本当に大変だと思ふのである。

社会機構は複雑多岐にわたり、人心も他を省りみる暇のないほど多忙な生活のなかで、統計事務を円滑に推進する起動的役割りを果たするのが調査員であろう。というものの、調査員の仕事ほど割のあわないものもない、損得を意識していたら調査員など引受ける人はおるまい。

現在のところ、県内に明確な調査員の登録制度を採用している市町村はない。しかしときおり郡市部において調査員確保の困難性が散見されるのである。ということは、都市化といわれる機構変革は、人間のもつ社会倫理をも変えてゆくものなのであろうか。人は孤高のなかに安住し、外部からの交渉を拒否する。己れの権利は人一倍主張するが、その義務を履行しようとはしない。そんな時代になつているのである。職場においても計算には電算機が登場し、家庭にあつては料理に電子レンジが利用されてはいるが、眼を調査員に転じてみると、あいも変わらず一枚一枚調査票を回収するのに昨日も今日も砂ボコリをあげて駈回らなければならない。

統計機構も機械化と、需要の拡大にともない、その範囲はますます複雑精巧にわたるけれども、調査員の仕事そのものは依然として2本の足にその力を借りなければならないのである。

2月(FEBRUARY)はラテン語のFEBREARIUSからとつたもので、浄みの月を意味する。そして、この月の10日に罪を浄める祭事を行なつたことに起因するという。私たち統計事務の一旦をになう者も、謙虚に身を浄めて、苛酷な諸条件のもとで活動しなければならない統計調査員の立場を理解し再考する必要を痛感するのである。このことは統計の精度向上にも連なることだからである。

県統計協会には、こうした統計調査員のうち、勇退されてゆく功績のあつた方々に統計協会総裁から感謝状が授与される制度があり、長くその業績を讃えるわけであるが、昭和44年度はその数238名に及んでいる。しかし、この方々は例えば農業センサスの調査員6,370名をとつてみても僅かに3.74%にすぎない。

なお、これを市郡別にみても、この制度を有効に利用しているところと、そうでないところがあるのである。折角こうした制度があるのであるから、各市町村当局においてもこの制度を活用し、統計機構の底辺に、静かに活躍する多くの調査員に対して、ささやかな銭としてほしいものである。

(県統計課 横須賀弘)

1 主要経済指標

主 要 経

Key

茨 城 県

年月	財政資金 対民間収 支尻	銀行勘定		銀行券	手形交換高		不渡手形		株式 取引高	県民所得	
		預金	貸出金	増減	枚数	金額	枚数	金額		分配所得	個人支出
昭和35年	百万円 15,581	百万円 75,617	百万円 51,718	百万円 2,937	千枚 198	百万円 70,264	枚 2,493	百万円 180	百万円 33,319	百万円 190,036	百万円 150,658
36	14,468	94,148	67,838	2,687	230	75,303	2,535	152	48,336	227,341	165,153
37	23,402	115,285	83,675	1,625	274	88,699	4,808	279	60,230	262,695	184,695
38	△25,800	141,041	102,665	△ 998	311	101,448	5,974	319	40,999	291,117	208,928
39	△32,758	165,627	112,699	△ 5,614	355	142,640	8,828	796	19,485	323,856	229,828
40	△37,458	185,609	8,595	△ 6,228	380	147,872	10,404	847	34,770	356,751	259,164
41	△42,214	217,545	123,688	△ 179	436	163,444	9,901	835	46,590	※383,100	※295,954
42	△54,001	266,236	146,606	40	484	197,977	8,318	873	40,313	412,209	291,773
43	△46,293	311,421	166,962	4,517	533	226,801	9,872	1,121	78,315	※440,407	※337,489
										※534,109	※385,515
44・9	△11,027	26,824	10,664	771	49	23,536	1,073	118	11,343	—	—
10	△13,049	6,558	△ 980	1,149	47	25,509	908	103	13,202	※は 新推計 による。	...
11	△18,390	22,968	7,571	1,686	40	21,194	604	77	16,815
12	△ 367	30,237	16,944	14,926	66	35,196	1,350	172	14,370

全 国

年月	財政資金 対民間 収支尻	全国銀行主要勘定		全国銀行貸出	銀行券	手形交換高		不渡手形	
		預金	貸出金	約定平均金利	発行高	枚数	金額	枚数	金額
昭和35年	億円 51	億円 888,722	億円 81,826	日歩銭(%) 2.239(8.17)	億円 12,341	千枚 203,728	億円 669,673	千円 2,172	億円 1,852
36	○ 4,909	103,324	97,701	2.191(8.00)	14,801	221,016	862,205	2,121	2,084
37	○△2,033	121,187	114,946	2.250(8.21)	17,459	242,368	1,016,246	2,525	2,805
38	○△ 614	156,481	145,626	2.133(7.79)	20,574	265,933	1,189,982	2,878	3,492
39	○△4,392	178,462	168,297	2.164(7.90)	22,988	290,466	1,431,042	3,726	5,271
40	○△2,662	206,531	192,175	2.137(7.80)	25,638	302,975	1,510,970	4,077	5,574
41	○ 2,220	237,900	220,460	2.049(7.48)	29,135	327,352	1,646,702	3,830	5,540
42	○ 752	266,671	253,230	2.004(7.31)	34,115	346,690	1,885,942	3,746	6,435
43	○△3,530	310,123	290,328	2.043(7.46)	40,419	364,011	2,252,989	3,752	7,371
44・9	△1,918	340,435	321,568	(%) 7.375	37,746	32,900	243,047	319	622
10	△1,980	334,828	323,740	7.470	37,708	32,149	234,253	295	581
11	△6,433	344,395	328,925	7.547	38,992	28,480	206,735	226	481
12	△2,311	48,113

注) ○印は会計年度

濟 指 標

Statistics

年月	百貨店 売上高	鋁工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		賃金指数	雇用指数	消費者 物価指数 (水戸・総 合・平均)	勞 働 市 場		
			工 事 費 予 定 額	床 面 積				新規求職 人	新規求人	失業保險被 保險者總数
昭和35年	百万円		千円	m ²				人		
	—	66.9	11,169,680	910,191	66.1	68.4	—	—	—	—
36	2,975	84.7	12,669,633	10,036,549	70.5	86.2	—	40,616	64,919	191,435
37	3,354	84.4	16,089,121	1,149,383	74.9	100.0	—	46,273	46,079	198,261
38	3,770	92.3	20,244,396	1,297,261	83.1	103.6	88.7	43,615	51,423	203,670
39	4,341	97.0	22,550,772	1,419,231	90.1	105.9	91.5	43,724	55,018	223,904
40	4,799	100.0	27,632,474	1,581,326	100.0	100.0	100.0	42,433	42,684	224,096
41	5,472	110.8	31,318,999	1,746,158	113.3	93.5	104.4	41,509	54,048	230,225
42		135.8	49,094,168	2,522,788	130.3	94.2	107.9	41,518	70,569	241,722
43	8,686	149.4	78,198,065	3,389,074	154.6	103.6	114.9	40,173	68,369	254,759
44・9	793	179.3	149.9	109.4	127.3	3,004	5,938	270,712
10	907	177.8	144.7	108.0	125.8	3,307	6,309	272,302
11	1,002	186.7	153.2	109.4	125.4	3,335	7,616	272,474
12	1,802	124.7	3,397	7,690	272,513

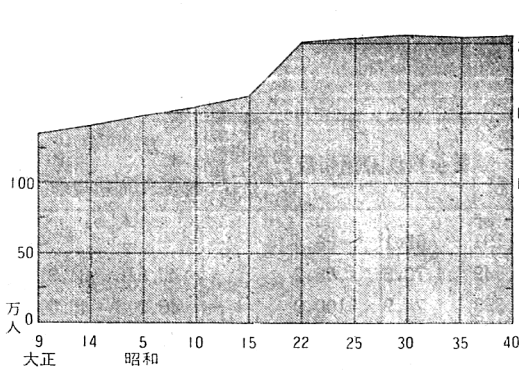
年月	国 民 所 得		百貨店 売上高	鋁工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		賃金指数 (名目・ 製造業)	雇用指数 (常用・ 製造業)	消費者 物価指数 (東京区 部)	失業保險者 被保險者 總数
	純 生 産	分配所得			工 事 費 予 定 額	床 面 積				
昭和35年	10億円	10億円	億円		千万円	千m ²				千人
	※13,269	...	4,075	58.0	6,741	5,122	61.8	74.3	74.0	12,385
36	※15,755	...	5,006	69.2	10,764	6,406	68.9	83.5	77.9	13,872
37	※17,730	...	5,818	74.7	11,518	6,387	75.4	89.5	83.0	15,264
38	※20,607	...	6,788	83.2	13,549	7,236	83.2	93.1	89.6	16,237
39	※23,329	※12,407	7,701	96.3	18,835	8,555	92.0	97.8	93.3	17,349
40	※26,000	※14,284	8,602	100.0	18,798	8,525	100.0	100.0	100.0	18,035
41	※30,273	※16,413	9,563	113.1	20,535	9,145	111.6	100.4	104.8	18,614
42	※35,792	※19,025	11,047	134.8	27,735	11,450	126.7	102.5	109.1	19,337
43	※32,250	...	12,839	158.3	35,741	13,373	146.6	105.3	115.2	20,064
44・9	1,023	193.6	50,513	17,000	139.3	p108.0	124.3	20,911
10	1,275	198.7	46,724	15,078	138.6	p107.9	r124.2	20,927
11	1,321	143.2	p108.6	124.5	...
12	121.6	...

※は年度数値

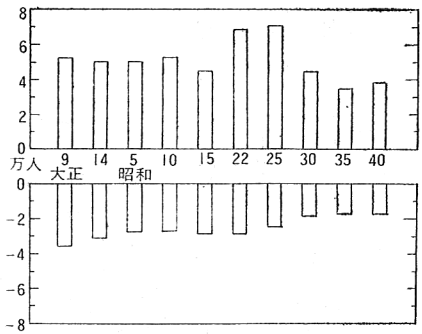
3 人 口

1 人 口 Population

図 総人口の推移



出生と死亡の推移



1-1 人口、世帯および人口移動

年 月 日	世帯数	人 口			人 口 移 動				
		総 数	男	女	増減数	自 然 動 態		社 会 動 態	
						出 生	死 亡	転 入	転 出
大正9年 10月 1日	世帯 269,860 人 1,350,400	662,128	688,272	△53,330	52,291	35,960	—		
〃 14. 10. 1	276,120 1,409,092	693,837	715,255	△38,225	50,937	31,034	△58,128		
昭和5. 10. 1	273,895 1,437,097	734,059	753,038	△31,227	50,445	27,308	△54,564		
〃 10. 10. 1	286,471 1,548,991	766,423	782,568	△22,614	53,532	27,274	△ 2,447		
〃 15. 10. 1	287,577 1,620,000	801,914	818,086	1,393	45,146	29,101	△ 9,853		
〃 22. 10. 1	376,753 2,013,735	974,269	1,039,446	72,902	69,164	28,475	△32,213		
〃 25. 10. 1	375,861 2,039,418	933,694	1,045,724	△ 8,034	60,325	24,784	△56,184		
〃 30. 10. 1	382,315 2,064,037	1,005,093	1,057,944	△ 2,440	44,592	18,732	19,545		
〃 35. 10. 1	409,465 2,047,024	1,000,184	1,046,840	291	35,664	17,709	17,704		
〃 40. 10. 1	447,871 2,056,154	1,007,852	1,048,302	7,761	34,447	16,533	△10,153		
〃 43. 12. 1	473,138 2,090,729	1,027,731	1,062,998	3,896	2,729	1,195	9,215	6,853	
〃 44. 12. 1	489,203 2,123,744	1,045,731	1,078,013	2,948	2,656	1,309	8,648	7,047	

資料：県統計課

1-2 市町村別人口

(単位：人)

市町村名	年月				市町村名	年月			
	昭和35年 10月	40年10月	43年12月	44年12月		昭和35年 10月	40年10月	43年12月	44年12月
水戸市	139,359	154,983	167,122	171,170	水海道市	37,577	36,584	36,138	36,371
日立市	161,226	179,703	186,452	189,095	常陸太田市	38,541	36,974	36,463	36,139
土浦市	71,474	78,971	83,356	88,125	勝田市	43,286	52,625	60,179	63,105
古河市	42,474	50,202	53,189	54,332	高萩市	32,816	32,497	30,335	30,119
石岡市	34,758	36,789	38,206	38,720	北茨城市	60,507	55,334	50,903	49,511
下館市	51,257	51,717	53,261	53,911	笠間市	32,143	31,082	30,471	31,253
結城市	38,060	38,078	38,706	39,296	東茨城郡	134,192	128,687	128,928	128,389
竜ヶ崎市	33,581	34,917	33,468	36,975	常澄村	9,850	9,393	9,074	8,951
那珂湊市	34,522	33,620	33,583	33,405	茨城町	30,845	29,439	29,158	29,047
下妻市	30,011	28,260	27,508	27,357					

市町村名	年月				市町村名	年月			
	昭和35年 10月	40年10月	43年12月	44年12月		昭和35年 10月	40年10月	43年12月	44年12月
小川町	15,762	15,447	17,235	17,078	阿見町	22,326	23,390	23,814	24,205
美野里町	14,680	14,381	14,867	14,982	牛久町	16,131	17,203	18,225	18,866
内原町	12,921	12,695	12,687	12,845	荃崎村	6,338	6,253	6,336	6,394
常北町	11,832	11,154	11,260	11,126	新利根村	9,489	8,943	8,670	8,584
桂村	8,785	7,938	7,469	7,271	河内村	13,065	12,158	11,611	11,530
御前山村	7,227	6,425	5,932	5,835	桜川村	8,900	8,178	7,914	7,829
大洗町	22,290	21,815	21,246	21,253	東村	14,121	13,280	12,734	12,648
西茨城郡	59,662	58,685	58,759	59,044	新治郡	83,382	79,312	77,937	78,421
友部町	19,007	19,714	20,220	20,417	出島村	18,260	16,861	16,313	16,305
岩間町	13,656	13,719	13,734	14,424	玉里村	5,233	5,080	5,142	5,117
七会村	4,029	3,469	3,226	3,067	八郷町	30,670	28,741	26,972	26,596
岩瀬町	22,970	21,783	21,579	21,136	千代田村	11,620	11,451	12,233	13,036
那珂郡	105,533	103,571	104,687	105,141	新治村	8,400	8,240	8,271	8,342
那珂海村	13,978	16,565	18,119	18,725	桜村	9,199	8,939	9,006	9,025
那珂町	30,556	30,006	30,833	30,847	筑波郡	89,642	84,937	83,935	84,351
瓜連町	6,988	6,832	6,818	6,902	谷田部町	20,570	20,093	20,073	20,207
大宮町	24,594	23,635	24,239	24,475	伊奈村	12,010	11,241	11,024	11,008
山方町	13,016	11,805	11,071	10,804	谷和原村	10,746	10,062	9,782	10,257
美和村	8,364	7,515	7,058	7,099	豊里町	11,165	10,497	10,256	10,216
緒川村	8,037	7,213	6,549	6,289	筑波町	23,817	22,091	21,997	21,835
久慈郡	74,230	67,875	64,083	63,252	大穂町	11,334	10,953	10,803	10,828
金砂郷村	14,748	13,554	12,577	12,831	真壁郡	76,660	73,394	72,809	72,692
水府村	11,635	10,580	9,824	9,583	関城町	14,979	14,368	14,167	14,177
里美村	7,668	6,980	6,583	6,351	明野町	17,513	16,682	16,195	16,010
大子町	40,178	36,761	35,039	34,487	真壁町	21,959	20,809	20,800	20,682
多賀郡	11,006	10,346	10,424	10,184	大和村	8,064	7,522	7,368	7,373
十王町	11,006	10,346	10,424	10,184	協和町	14,145	14,016	14,279	14,450
鹿島郡	118,457	113,010	115,686	122,226	結城郡	52,189	49,080	48,160	48,024
旭村	11,747	10,759	10,439	10,401	八千代村	24,438	22,687	22,244	22,180
鉾田町	28,657	26,939	27,937	27,427	千代川村	8,447	7,912	7,822	7,694
大洋村	10,212	9,331	8,728	8,787	石下町	19,304	18,481	18,094	18,150
大野村	10,679	9,779	9,315	9,733	猿島郡	119,892	117,272	118,465	121,799
鹿島町	16,132	16,305	18,694	21,588	総和町	20,703	21,023	21,870	23,325
神栖村	16,326	15,820	16,224	18,986	五霞村	9,157	8,668	8,613	8,641
波崎町	24,704	24,077	24,354	25,313	三和町	19,269	18,380	18,390	18,459
行方郡	72,016	68,169	66,588	66,884	猿島町	14,810	14,053	13,602	13,609
麻生町	20,182	18,852	18,113	17,932	岩井町	33,366	33,459	33,621	35,303
牛堀町	6,796	6,466	6,381	6,393	境町	22,587	21,689	22,369	22,462
潮来町	17,671	17,111	17,175	17,508	北相馬郡	55,916	59,398	66,535	74,384
北浦村	12,401	11,611	11,164	11,044	守谷町	11,449	11,475	11,714	11,899
玉造町	14,966	14,129	13,755	14,007	取手町	22,582	26,179	31,111	38,409
稲敷郡	112,565	110,082	109,393	110,073	藤代町	12,606	13,002	15,178	15,662
江戸崎町	13,017	12,266	11,801	11,801	利根町	9,279	8,742	8,532	8,414
美浦村	9,178	8,411	8,288	8,216					

資料：県統計課

図 金融機関預金残高 (茨城)

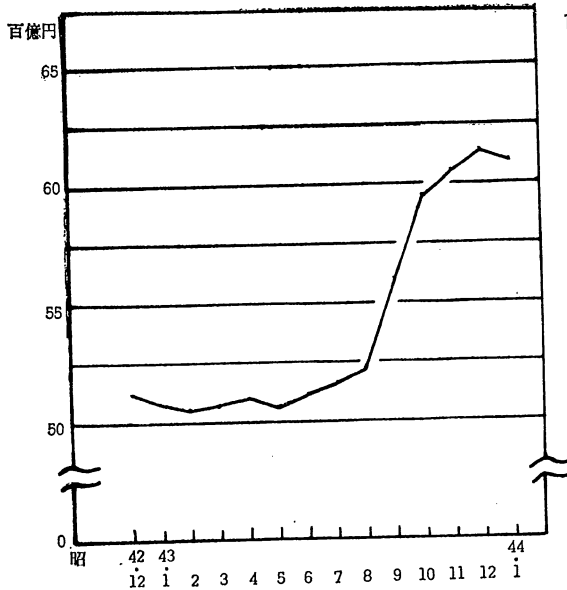
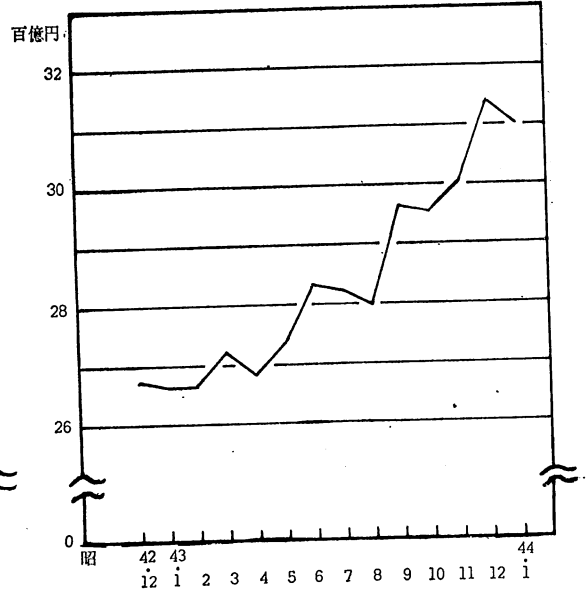


図 金融機関貸出金残高 (茨城)



2-2 金 融 機 関 預 金

年 月	総 額				銀 行		相 互 銀 行		信 用 金 庫	
	預 金	対前年 同月比	貸 出 金	対前年 同月比	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金
昭和41年12月	419,678	—%	272,774	—%	214,900	122,899	33,408	24,311	29,528	21,613
42・12	528,462	124.2	267,314	124.1	263,868	145,822	40,777	29,314	37,278	28,129
43・5月末	519,172	—	273,921	—	269,566	145,443	40,654	30,481	37,300	30,558
6	528,607	122.1	283,023	116.6	273,551	150,531	42,065	31,302	38,259	31,412
7	537,837	122.1	282,213	119.0	274,794	150,446	42,243	31,816	38,456	31,958
8	545,376	121.5	280,374	115.3	275,323	148,017	42,768	30,580	39,209	32,728
9	571,579	121.7	296,789	125.7	289,820	156,120	44,936	33,955	39,737	32,977
10	590,862	122.7	295,786	126.2	290,473	155,811	44,728	33,176	39,615	32,578
11	611,157	121.5	302,499	126.4	300,805	158,675	45,957	34,415	41,268	34,179
12	638,897	125.2	314,075	120.5	308,167	166,079	50,166	36,091	44,047	32,435
44年 1月	621,638	123.3	310,087	121.6	300,197	165,329	48,796	35,947	43,491	32,041
2	—	—	—	—	301,808	165,811	48,716	37,112	43,526	32,353
3	—	—	—	—	317,315	173,905	50,915	37,001	44,700	33,078
4	—	—	—	—	315,548	169,943	50,381	37,938	45,295	33,617
5	—	—	—	—	318,157	171,334	51,124	38,103	45,693	37,696
6	—	—	—	—	323,396	177,179	52,547	38,659	46,385	38,428

資料： 大蔵省水戸財務部

2-1 業種別貸出先数および貸出残高 (茨城) (単位:百万円)

業 種 別	40年3月		41年3月		42年3月		43年3月		44年3月	
	貸出先数	金額	貸出先数	金額	貸出先数	金額	貸出先数	金額	貸出先数	金額
合計	36,375	114,351	39,406	120,393	44,200	126,230	49,636	146,887	58,968	173,862
製造業	5,413	56,255	5,725	57,764	5,736	54,176	5,960	60,322	6,319	68,908
食料品	1,583	7,557	1,549	8,153	1,489	9,218	1,448	10,407	1,446	11,364
繊維	576	4,225	575	4,346	595	3,621	631	4,148	687	4,396
木材・木製品	1,007	3,271	1,080	3,062	1,099	3,692	1,111	4,626	1,106	5,221
化学工業	88	5,956	89	6,566	80	5,842	77	6,167	91	7,548
非鉄金属	19	3,792	35	4,237	20	4,372	35	4,629	32	5,607
電気機械器具	332	13,196	396	12,939	370	9,251	10,196	10,196	453	11,913
輸送用機械器具	53	4,327	69	4,739	65	4,943	5,727	5,727	75	6,100
農業	9,527	2,213	9,800	2,228	11,027	2,956	12,641	3,557	14,885	4,745
林業	40	113	35	82	44	87	44	131	63	166
漁業・水産養殖業	176	1,475	176	1,582	191	1,373	215	1,753	219	1,987
鉱業	142	3,622	132	3,831	135	2,873	122	3,047	144	3,495
建設業	927	3,765	1,179	3,676	1,323	4,344	1,714	5,561	1,993	7,038
卸売小売業	11,029	27,278	11,406	30,130	12,557	36,939	12,886	44,069	13,075	51,429
卸売	2,110	15,228	2,172	17,094	2,267	20,536	2,169	22,906	2,295	25,615
小売	8,919	12,050	9,234	13,036	10,290	16,403	10,717	21,163	10,780	25,814
金融・保険業	47	2,143	48	1,544	46	1,303	51	1,118	57	1,419
不動産業	105	4,538	134	5,684	150	5,496	210	6,859	262	9,152
運輸通信業	420	3,007	504	2,537	497	2,229	555	2,366	591	3,183
電気・ガス・水道業	4	159	6	235	6	158	8	314	15	286
サービス業	2,240	6,620	2,518	7,008	2,899	8,199	3,466	9,960	4,078	11,722
その他	6,305	3,163	7,743	4,092	9,589	6,097	11,764	7,830	17,267	10,332

資料：日本銀行統計局

貸 出 残 高 (茨 城)

(単位:百万円)

年 月	信用組合		農 協		農林中金・商工中金		労働金庫		郵便局
	預 金	貸出金	預 金	貸出金	預 金	貸出金	預 金	貸出金	預 金
昭和41年12月	19,911	17,494	42,232	15,259	18,055	9,362	2,865	1,786	59,822
42・12	26,444	22,101	54,485	18,292	22,421	10,669	3,697	2,296	73,602
43・5	25,395	22,658	46,751	22,504	15,742	12,494	3,654	2,194	77,617
6	26,119	22,742	45,414	23,793	15,575	13,804	3,902	2,246	79,646
7	24,461	23,307	45,638	24,696	17,316	10,714	4,016	2,320	81,974
8	26,740	23,324	50,657	25,385	18,515	10,908	4,088	2,317	83,935
9	28,419	24,165	55,071	25,411	21,665	11,115	4,057	2,360	83,488
10	27,862	24,049	63,744	24,749	30,325	11,306	4,052	2,470	85,315
11	28,520	24,515	67,183	23,715	32,203	11,351	4,161	2,599	86,353
12	32,120	26,142	72,884	25,533	31,124	11,909	4,554	2,776	91,318
44年1月	29,830	25,087	67,389	24,935	28,913	11,665	4,561	2,735	93,883
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—	—	—	—	—

7 農 業

3 農 業 Agriculture

3-1 農産物の平均販売価格(茨城)

(単位：円)

年 月	うるち米 (玄米60kg)	小 麦 (玄麦3等 程度60kg)	ばれいしょ (男爵10kg)	だいこん (葉付10kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	肉 豚 (生体10kg)	乳用牛 (めす・生 後4月~6 月ホルス タイン純 種)
昭和40年12月	6,460	2,042	233	196	385	1,935	2,199	45,615
41 //	6,350	2,124	266	207	407	1,896	1,910	57,777
42 //	7,264	2,067	240	159	...	2,189	2,324	62,875
43 //	7,667	2,393	...	95	491	2,002	2,929	71,067
44 9	8,333	3,317	500	1,661	3,409	64,000
10	8,333	2,200	...	94	502	1,949	2,946	65,666
11	8,367	125	501	2,083	2,617	66,330
12	8,467	130	500	2,341	2,469	67,333
45. 1	8,467	502	2,208	2,487	...

資料：農林省茨城統計調査事務所 (注) 昭和43年以降の価格は、それぞれの代表生産地における価格である。

3-2 農 業 用 品 の 購 入 価 格 (茨城)

(単位：円)

年 日	乳用牛 (成畜めす ホルスタ イン純種)	子 豚 (めす・生 後50~70 日中ヨー クシヤー)	硫 安 (N21%か ます40kg)	過りん酸 石 灰 (かます40 kg可溶性 りん酸17 %)	複合肥料 (N8%・P 8%・K5 %30kg)	配合飼料 (成鶏用20 kg粗たん 白15%以 上)	配合飼料 (乳牛用30 kg粗たん 白13%以 上)	パラチ オン剤 (46.6又は 46.7%乳 剤 単位 100cc)
昭和40年12月	152,701	5,446	800	561	807	797	1,028	191
41 //	171,375	3,904	801	572	710	802	1,024	188
42 //	216,625	5,927	774	582	612	797	1,015	173
43 //	246,250	8,600	748	582	666	778	1,078	190
42. 9	220,250	12,375	731	578	655	794	1,055	200
10	216,250	11,500	728	576	656	794	1,055	200
11	200,000	9,000	728	576	656	794	1,055	200
12	201,250	7,750	728	576	656	794	1,055	200
45. 1	211,250	6,975	728	576	656	781	1,055	200

資料：農林省茨城統計調査事務所 (注) 昭和43年4月以降の価格は農業地域代表市町村の価格である。
昭和43年4月以後子豚の価格はランドレース (F1ランドレース系) 60~90日程度の価格である。

4 鉱工業 Mining & Manufacturing

4-1 茨城県鉱工業生産指数(基本指数)

(昭和40年=100)

項目	産業総合	公益事業	鉱工業	製造工業							
				鉱業	石炭・ 亜炭	炭 鉱業	金属 鉱業	非金属 鉱業	鉄鋼業	非鉄金 属工業	金属製 品工業
品目数	129	2	127	10	1	5	4	117	4	7	5
ウェイト	100.0	0.39	99.61	5.48	56.59	28.34	15.07	94.52	1.72	7.31	3.27
昭和35年	67.0	92.6	66.8	87.2	91.0	87.6	54.9	64.9	62.6	52.5	—
36	84.7	89.7	84.6	89.8	92.6	90.9	66.0	84.2	80.4	73.6	—
37	84.5	90.0	84.4	90.3	90.2	98.6	68.6	83.9	80.4	56.6	—
38	92.3	77.9	91.6	92.2	92.6	99.8	76.7	91.5	83.8	72.8	—
39	97.0	95.3	97.1	99.0	95.6	100.4	111.2	92.5	106.8	101.3	—
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	110.8	266.9	110.2	101.2	107.0	104.2	73.7	110.7	117.1	107.7	157.6
42	135.8	617.7	133.9	98.9	99.5	100.6	93.8	135.9	133.9	130.5	173.2
43	149.4	427.8	147.5	92.1	86.7	96.7	103.6	150.8	138.2	134.3	130.7
44.9	179.3	952.2	173.2	98.2	85.0	102.1	140.9	180.8	216.9	138.8	224.4
10	177.8	589.3	170.7	100.7	88.3	99.7	148.9	180.6	202.2	158.5	198.5
11	186.7	752.7	184.3	99.6	91.9	93.5	141.0	189.4	197.4	160.6	171.3

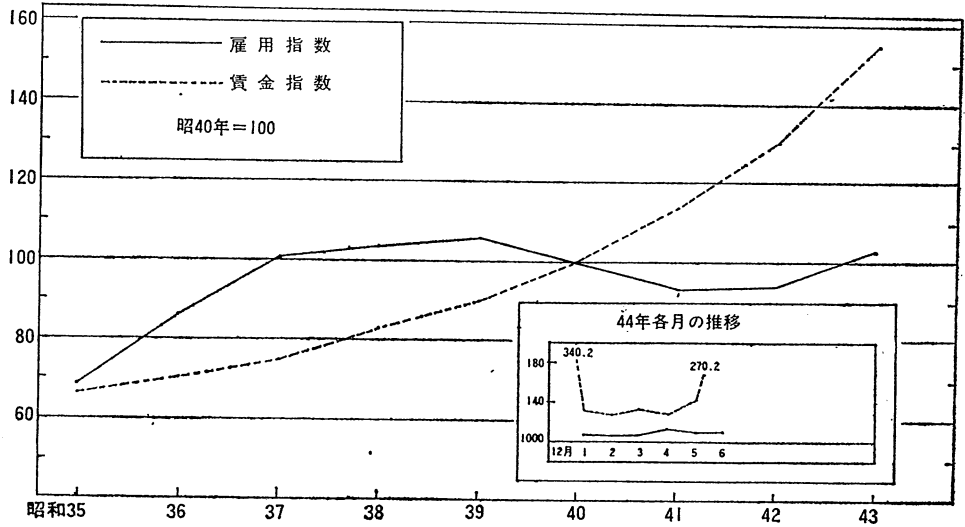
項目	製 造 工 業												
	機 械 工 業				窯 土 製品工業	化学 工業	石油 製品工業	石炭 工業	皮革工業	パルプ・ 紙・紙加 工品工業	繊維工業	食料品	煙草
	一般機械	電気機械	輸送機械	精密機械									
品目数	15	24	5	5	4	11	1	2	3	12	9	1	
ウェイト	8.48	38.91	2.04	2.69	4.69	2.72	0.18	0.48	1.26	10.55	3.89	1.83	
昭和35年	51.0	71.9	26.0	9.3	85.1	93.3	13.0	37.5	51.2	77.6	75.1	...	
36	79.4	103.4	50.4	14.5	85.4	99.8	12.5	44.2	61.7	110.4	79.6	...	
37	74.3	101.9	56.0	60.7	84.1	84.7	12.2	64.6	76.6	128.2	89.4	...	
38	86.3	104.4	69.5	99.0	85.7	88.0	100.4	82.7	83.0	137.1	92.2	113.7	
39	101.0	102.2	80.7	120.9	91.8	92.8	97.3	93.1	99.4	110.1	96.4	92.4	
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
41	105.7	110.3	115.2	108.0	102.1	116.5	93.5	85.8	127.5	98.3	106.9	112.0	
42	132.3	137.5	147.4	106.0	111.0	121.6	74.7	64.7	144.3	106.3	131.1	191.6	
43	149.4	176.8	193.6	78.2	124.8	135.2	91.1	71.9	160.8	139.6	149.1	222.8	
44.9	177.7	192.1	246.4	90.0	135.5	233.5	88.6	78.9	203.1	203.4	177.1		
10	223.8	177.8	251.0	104.7	118.6	239.7	103.7	76.0	199.1	176.9	185.2		
11	232.7	191.3	240.7	89.6	143.5	222.6	97.4	74.8	211.6	191.3	187.9		

資料：県統計課

5 勞 働 Labor

図 産業別雇用・賃金指数の推移 (茨城)

(昭和40年=100)



5-2 産 業 別 雇 用

年 月	総 合				鉱 業		建 設 業		製 造 業	
	雇 用	賃 金	対前月(年)比較	対前月(年)比較	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金
基準年次実数	155,584	—	32,542	—	12,196	37,797	6,047	30,625	103,093	29,999
昭和35年	68.4	—	66.1	—	93.0	60.4	88.9	53.7	60.4	68.2
36	86.2	17.8	70.5	4.4	92.3	66.8	114.7	62.9	82.0	74.6
37	100.6	13.4	74.9	4.4	93.3	71.5	114.6	66.5	101.6	77.3
38	103.6	3.0	83.1	8.2	92.2	83.4	117.9	77.0	102.9	85.4
39	105.9	2.3	90.1	7.0	96.8	91.3	112.9	91.5	105.7	90.2
40	100.0	△5.9	100.0	9.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	93.5	△6.5	113.3	13.3	105.8	107.3	84.3	98.9	93.9	116.2
42	94.2	0.7	130.3	17.0	97.2	119.4	71.7	123.1	98.7	136.1
43	103.6	9.4	154.7	24.4	87.2	139.0	78.2	145.0	112.9	164.0
44.1	107.6	△0.5	130.9	△209.7	86.6	118.7	92.5	112.9	118.7	140.5
2	107.2	△0.4	127.0	△ 3.9	85.8	125.7	93.3	112.0	118.1	135.0
3	107.9	0.7	133.7	6.7	85.2	150.1	88.5	171.1	118.5	134.4
4	110.4	2.5	128.3	△ 5.4	83.5	122.8	88.3	119.4	120.9	136.4
5	109.7	△0.7	143.2	14.9	82.9	129.2	78.4	117.6	121.9	156.7
6	109.8	0.1	270.2	127.0	83.7	195.8	71.9	246.6	120.9	295.0
7	110.2	0.4	204.2	△ 66.0	83.8	145.2	75.8	151.6	121.5	245.1
8	109.0	△1.1	155.4	△ 48.8	83.1	211.4	68.7	147.3	120.4	156.8
9	109.4	0.4	149.9	△ 5.5	78.5	141.0	63.6	142.3	122.1	159.3
10	108.0	△0.6	144.7	△ 5.2	78.0	140.5	65.9	151.6	120.3	152.5
11	109.4	1.4	153.7	9.0	74.8	176.1	74.3	143.1	122.4	162.1
12

資料：県統計課

注) 規模30人以上の事業所

5-1 労働時間

(単位：1人1カ月当たり)

年 月	全産業	前月(年) 比 較	鉱 業	建設業	製造業	卸 売 小売業	金融・ 保険業	運輸・ 通信業	電気・ ガス・ 水道業	所定内労働時間	
										全産業	製造業
昭和35年	191.5	...	185.6	188.9	195.6	190.9	175.6	186.9	160.4	167.2	166.9
36	190.0	△1.5	184.9	182.1	192.7	189.7	180.4	190.2	159.2	166.1	164.5
37
38
39	193.5	...	199.8	181.2	191.3	192.6	180.1	197.8	178.5	174.9	172.8
40	186.4	△7.1	199.2	174.2	180.7	197.4	166.2	192.1	174.0	172.0	168.0
41	187.2	0.8	201.0	165.7	175.4	195.4	151.8	190.3	166.6	170.7	164.3
42	191.7	4.5	193.8	161.1	196.3	191.6	169.6	194.2	176.0	171.1	174.6
43	194.1	2.4	195.8	172.4	196.5	190.2	165.4	197.0	171.1	171.2	172.5
44.1	170.7	△17.5	171.0	127.8	168.0	185.0	155.1	188.3	154.6	149.3	146.6
2	194.5	23.8	202.4	151.3	199.4	186.4	153.0	191.6	158.9	170.3	173.7
3	186.6	△7.9	202.0	159.7	188.0	182.6	159.9	167.3	170.2	163.5	164.1
4	192.2	5.6	193.1	149.6	193.9	215.7	158.3	191.9	177.2	168.5	169.1
5	180.9	△11.3	194.7	142.4	179.9	198.8	164.0	188.8	168.4	158.6	157.1
6	201.6	20.7	199.3	159.8	205.1	207.5	166.6	197.1	175.4	177.1	179.2
7	198.2	△2.4	204.8	173.2	198.9	210.1	176.0	199.2	172.5	173.5	173.1
8	187.7	△10.5	181.1	159.3	188.6	195.7	167.8	196.0	170.2	165.2	165.6
9	197.7	10.0	202.2	164.1	201.1	199.0	162.0	189.3	171.8	173.6	175.6
10	187.5	△10.2	194.8	174.9	187.4	194.8	164.2	191.4	173.5	164.7	163.8
11	199.0	2.5	197.6	170.8	202.5	199.9	161.1	193.6	159.6	175.1	177.6
12

資料：県統計課 注) 規模30人以上の事業所

賃 金 指 数 (茨城)

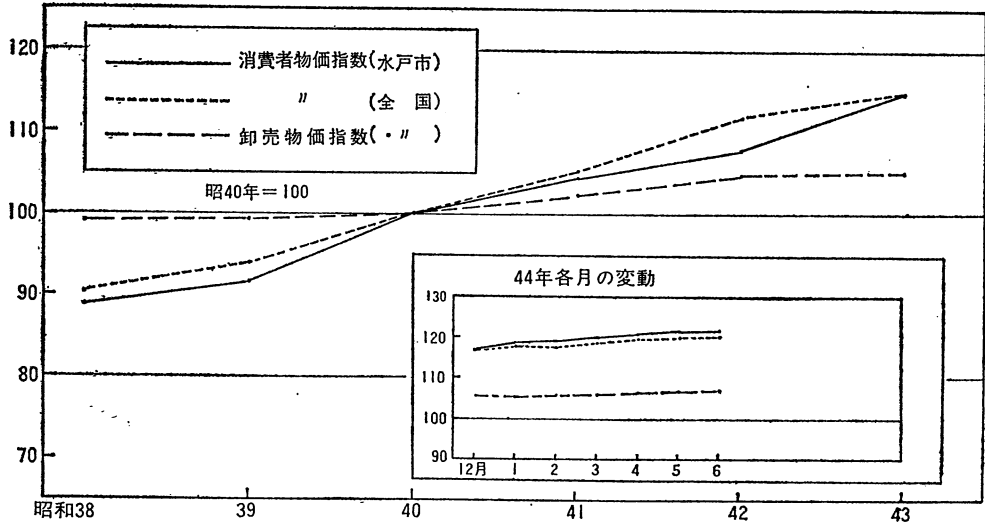
(基準年次昭和40年=100)

年 月	卸 売・小 売 業		金 融・保 險 業		運 輸・通 信 業		電 気・ガ ス・水 道 業	
	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金
基準年次実数	7,426	29,061	5,112	41,419	19,012	40,528	1,943	55,638
昭和 35 年	96.2	53.9	74.8	57.1	75.7	60.3	92.9	62.4
36	109.7	57.0	84.0	61.1	89.5	66.7	88.7	67.6
37	111.5	60.7	86.9	72.4	99.8	77.4	82.8	72.1
38	110.0	59.9	92.9	79.4	117.3	83.5	76.4	72.1
39	108.7	87.9	103.4	89.5	116.6	90.3	83.5	88.9
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	87.4	99.5	90.7	105.6	82.1	111.6	115.5	115.2
42	92.6	106.9	89.1	111.1	76.0	127.9	122.3	130.2
43	96.4	128.6	99.5	142.4	102.0	145.7	122.7	140.5
44.1	100.4	118.3	83.9	130.8	75.4	117.4	120.9	106.8
2	101.6	119.0	85.0	104.8	75.2	117.3	119.9	107.0
3	114.3	117.7	86.5	116.9	75.1	141.4	119.4	114.6
4	120.7	120.4	88.8	106.8	75.1	116.4	123.3	113.3
5	130.7	143.4	85.8	109.7	75.0	113.9	122.4	115.6
6	131.9	196.7	84.0	328.7	75.2	204.0	122.3	355.0
7	132.7	178.8	85.9	177.3	75.8	217.7	122.3	122.8
8	130.9	123.3	86.9	116.3	75.2	170.5	121.5	122.5
9	129.4	154.1	86.0	120.5	74.7	134.8	120.2	120.0
10	124.5	122.3	84.1	113.9	74.7	143.8	119.7	123.3
11	123.8	132.6	84.8	114.1	74.6	136.5	119.0	135.6
12

11 物 価

6 物 価 Price

図 消費者物価指数と卸売物価指数の変化



6-2 消 費 者

1. 水 戸 市

(昭和40年=100)

費 目 品 目 数 ウ エ イ ト	総 362 10,000	合		食 料 146 4,074	住 居 45 1,161	光 熱 8 502	被 服 62 1,297	雑 費 101 2,966
		対前月(年)比較						
昭和38年平均	88.7	—		85.4	92.9	99.3	88.3	90.7
39	91.5	2.8		89.2	93.4	99.3	91.1	92.8
40	100.0	8.5		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	104.4	4.4		103.2	105.3	97.2	103.8	107.1
42	107.9	3.5		107.1	109.2	98.4	105.3	111.3
43	114.9	7.0		115.3	116.4	99.4	110.7	118.5
44. 9	122.3	4.8		133.5	129.1	101.1	120.9	125.3
10	125.8	△1.5		129.3	129.4	101.1	122.2	125.4
11	125.4	△0.4		127.3	129.5	101.1	122.2	126.8
12	124.7	△0.7		125.0	129.6	101.5	122.5	127.1

資料：県統計課

6-1 費目別物価上昇寄与率（水戸市）

区 分	40年	41	42	43	44.8月	9月	10月	
総合食料	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
食料	51.8	28.9	45.7	48.0	16.7	19.9	15.2	
その他の食料	主 食	13.2	8.6	7.1	12.8	—	1.6	0.6
	生鮮魚介類	8.1	1.2	8.7	10.5	3.0	3.4	2.1
	肉類	0.5	1.2	4.2	4.7	2.5	2.4	2.2
	野菜	13.5	—	11.4	—	3.3	2.4	1.7
	果物	2.0	8.7	—	0.6	0.1	1.8	0.7
住居	9.0	13.6	12.7	11.7	15.2	26.1	8.5	
家賃	5.7	7.7	3.4	2.4	3.7	1.8	5.5	
設備修繕	0.4	4.0	8.3	8.1	3.7	8.8	2.0	
光熱費	0.4	—	1.1	1.0	0.4	—	1.4	
被服費	13.6	10.9	5.5	10.1	0.3	0.6	13.6	
雑費	25.2	46.6	35.0	29.1	67.5	54.4	61.2	
交通通信	1.4	15.1	6.2	2.4	4.5	3.0	4.9	
教育	3.8	10.7	11.2	10.2	—	—	0.8	
教養娯楽	14.2	19.3	15.4	8.3	8.2	1.4	29.4	

資料：県統計課

注）昭和44年以後は昭和38～41年を基準として補正したものである。

物 価 指 数
2. 全 国

年 月	消費者物価指数 (昭40年=100)			卸 売 物価指数 (昭40年=100)	戦前基準指数 (昭9～11年平均=1.0)		
	全 国	対前月(年)比較	人口5万人 以上の都市		消費者物価 指数 (東京)	卸売物価 指 数	
昭和35年平均	74.0	74.0	97.9	328.0	352.1
36	77.9	77.9	98.9	345.0	355.7
37	83.2	83.0	97.3	368.2	349.7
38	90.3	...	89.5	89.6	99.0	397.3	356.0
39	93.8	(+) 3.5	92.9	93.3	99.2	413.3	356.7
40	100.0	(+) 6.2	100.0	100.0	100.0	443.2	359.4
41	105.1	(+) 5.1	105.1	104.8	102.4	464.4	368.1
42	109.2	(+) 4.2	109.2	109.1	104.3	483.5	374.7
43	115.0	(+) 5.8	115.0	115.2	105.1	510.5	377.9
44.9	123.8	(+) 0.7	123.8	124.5	108.8	551.7	389.9
10	124.4	(+) 0.5	124.4	124.3	109.2	550.9	391.0
11	123.8	(-) 0.4	123.8	124.2	109.9	550.4	392.5
12	124.5	107.4	551.7	395.0

資料：日本銀行「経済統計月報」

7 家 計 主 要 指 標

Key Statistics on the Family

家 計 主 要 指 標

項 目	勤 勞 者 世 帯							全 世 帯		消費者	
	実収入	(1) 可処分所得	消費支出	(2) 黒 字	(3) 平均消費性向	(4) 実質実収入指数	(4) 実質消費支出指数	消費支出	(5) エンゲル係数	物 価 指 数	
全 国											
昭和38年平均	円 53,298	49,076	41,105	7,971	83.8	90.6	92.2	40,246	38.7	90.3	(1) 実収入 - 非消費支出 (2) 可処分所得 - 消費支出 (3) 消費支出 ÷ 可処分所得 (4) 当該項目 (40年=100) ÷ 消費者物価指数 (5) 食料費 ÷ 消費支出
39	59,704	54,873	45,511	9,362	82.9	97.8	98.3	44,481	38.1	93.8	
40	65,141	59,557	49,335	10,222	82.8	100.0	100.0	48,396	38.1	100.0	
41	71,347	65,073	53,599	11,474	82.4	104.2	103.3	52,516	37.3	105.1	
42	78,725	72,039	58,763	13,276	81.6	110.6	109.0	57,071	36.8	109.3	
43	87,599	80,416	65,477	14,939	81.4	116.9	115.3	63,607	35.5	115.1	
44. 9	80,544	74,230	67,048	7,182	90.3	100.0	109.9	67,048	35.3	123.6	
10	80,799	74,156	70,371	3,785	94.9	99.8	114.5	70,371	34.4	124.2	
水 戸 市											
昭和38年平均	円 67,692	61,266	44,260	17,006	72.2	108.0	92.5	40,899	34.2	88.7	
39	64,909	59,002	48,315	10,687	81.8	100.4	97.9	45,445	35.9	91.5	
40	70,600	63,966	53,892	10,074	84.2	100.0	100.0	49,643	35.5	100.0	
41	79,293	71,153	57,745	13,408	81.1	107.5	102.5	52,952	35.5	104.4	
42	86,917	78,824	62,943	15,881	79.8	113.7	107.8	59,567	34.2	107.9	
43	114.9	
44. 9	97,097	90,962	73,882	17,080	81.2	108.0	107.7	69,529	30.6	127.3	
10	75,498	69,389	66,642	2,747	96.0	85.0	98.3	67,829	31.5	125.8	

資料：総理府統計局

要 指 標

Income and Expenditure Survey

1 カ月 1 世帯当たりの収入と支出 (勤労者世帯)

収 入

水戸市

年 月	集計世帯数	世帯人員数	世帯主の年齢	収入(支出) 総 額	実収入					
					勤め先収入	事業・内職収入	他 の実収入	実収入以外の収入	前月から繰入金	
昭和38年平均	61	4.24	42.6	93,967	67,692	55,464	1,607	10,621	10,101	16,174
39	57	4.26	42.5	96,413	64,909	59,058	1,069	4,782	15,521	15,983
40	57	3.99	42.2	108,204	70,600	64,756	1,921	3,923	19,483	18,121
41	54	3.99	41.7	115,607	79,293	74,295	1,112	3,886	14,704	21,610
42	54	3.88	42.0	125,294	86,917	80,407	1,804	4,646	18,087	20,289
43
44、9	68	3.79	41.9	146,903	97,097	68,485	2,027	26,585	26,508	23,297
10	71	3.79	41.4	134,259	75,498	70,877	1,688	2,932	33,579	25,183

支 出

年 月	実支出	消 費 支 出					非消費支出	実支出以外の支出	繰越金	現物総額	備 考
		食料費	住居費	光熱費	被服費	雑費					
昭和38年平均	50,686	14,488	5,172	1,928	5,428	17,244	6,426	26,039	17,242	3,418	① (収入) の世帯数人員数、年齢は (支出) にも該当 ② 消費支出の計は<主要指標>の計と一致 ③ (支出) における支出総額は上記 (収入総額) の項と同じ。
39	54,222	15,487	6,158	2,147	5,936	18,587	5,907	25,086	17,105	3,710	
40	60,526	17,182	6,698	2,414	6,725	20,873	6,634	28,330	19,348	4,269	
41	65,885	18,308	5,629	2,650	6,677	24,481	8,140	28,492	21,230	3,879	
42	71,036	16,637	6,411	2,799	7,150	26,947	8,092	32,615	21,643	4,277	
43	
44、9	80,017	21,595	12,307	2,021	6,700	31,259	6,135	40,935	25,950	3,676	
10	72,751	20,879	5,518	2,483	9,373	28,387	6,109	32,357	29,151	4,778	

過疎地帯の移動人口実態調査結果について

県統計課人口統計係

I 調査要領

1 目的

近年、社会経済の変動にともなつて全国的に人口移動が著しく、本県の人口動態においても同様の傾向にあり、ことに農山村においては人口流出による過疎化の現象が生じている。

よつて、この過疎化傾向にある地帯について、人口流出にかかる要因、態容等をとらえ、その実態を明らかにしようとするものである。

2 対象

地域→人口減少率 $\frac{S_{40年}}{S_{35年}} = \Delta 0.8\%$ 以上の17市町村のうち次の10町村
 金砂郷村、水府村、里美村、大子町、山方町、美和村、緒川村、桂村、御前山村、七会村
 客体→住民基本台帳法第24条の規定による転出届をする者及びその家族

3 内容

性別、年令、転出先、移動の状態、転出の理由、従

事する産業、転出者の収入（昭和43年中）従業上の地位

4 期間

昭和44年4月1日から昭和45年3月31日までの1年間

5 調査票の記入

実態調査は「移動人口実態調査票」をもちい、町村の担当職員が転出届者より聞き取つて記入する。

6 結果の公表

速報 4半期ごとに年4回公表
 年報 1カ年間をまとめ公表

調査結果の概要

県全体からみた、過疎地帯の人口分布の状況は、昭和40年国勢調査では人口分布率5.5%、人口密度（1km²あたり）116.2人、1世帯あたりの世帯人員4.88人であつたが昭和45年1月1日現在では人口分布率4.9%を占めており、人口密度は107人、1世帯あたりの世帯人員は4.5人となつている。

	昭和40年国勢調査 (40.10.1)				昭和45年1月1日現在			
	人口 (人)	人口分布率 (%)	人口密度 (人)	1世帯あたりの世帯人員 (人)	人口 (人)	人口分布率 (%)	人口密度 (人)	1世帯あたりの世帯人員 (人)
県全体	2,056,145	100.0	337.7	4.55	2,127,828	100.0	349.5	4.3
過疎地帯	112,240	5.5	116.2	4.88	103,845	4.9	107	4.5

注) 昭和40年国勢調査の1世帯あたりの人員は普通世帯の人員である。

1 移動の状況

過疎地帯における今期（10月～12月）の移動状況は、前々期（4～6月）前期（7～9月）よりも移動率が低下して1.3%であり、社会増加率は前期と同率の△0.3%、271人が転出超過をみている。

また、県全体との比較については表1のとおりである。

表1 4半期別の状況

4半期別	区分	移動者数 (人)	移動率 (%)	社会増加率 (%)	転出超過数 (人)
過疎地帯	4～6月	2,617	2.5	△0.7	715
	7～9月	1,432	1.5	△0.3	271
	10～12月	1,299	1.3	△0.3	271
県全体	4～6月	70,850	3.5	0.2	△4,890
	7～9月	52,580	2.5	0.5	△9,541
	10～12月	45,689	2.1	0.2	△5,047

注) △印は社会減少率、転入超過数を示す。

り、県全体では引き続き移動率も高く、社会増加率でもともに上回つている。

なお、過疎地帯各町村の移動状況については表2のとおりであるが、七会村においては、10月に実態調査をしたため大きく転出超過しているの、表の利用にあつては留意されたい。

2 年令階層別転出者の状況

過疎地帯の転出者785人について、年令階層別にみると、生産年令者（15～64歳）は698人と全体の89%を占め、ついで幼年者（0～14歳）66人（8%）、老年者（65歳以上）21人（3%）となつている。

このうち、初期生産年令期にあたる15～24歳者のみは前々期、前期とその比率が低下してきており、前々期からみると11%も低下しその反面、他の年令階層においては上昇してきている。

また、県内、県外別では、前期とは反対に県内転出者が上回つているが、15～24歳では、県内より県外転出者

が上回っている状態である。

表 2 移 動 の 状 況 (10~12月)

区 分 町村別	移動者数	移 動 率 (%)	転 入			転 出		
			計	県 内	県 外	計	県 内	県 外
大 子 町	403	1.2	167	48	119	236	92	144
里 美 村	101	1.6	36	18	18	65	38	27
水 府 村	114	1.2	53	34	19	61	38	23
金 砂 郷 村	120	0.9	53	34	19	67	44	23
緒 川 村	65	1.0	34	15	19	31	13	18
美 和 村	71	1.0	23	8	15	48	20	28
山 方 町	156	1.5	61	36	25	95	65	30
七 会 村	104	3.4	18	8	10	86	40	46
桂 村	66	0.8	28	15	13	38	23	15
御 前 山 村	99	1.7	41	10	31	58	30	28
合 計	1,299	1.3	514	226	288	785	403	382
県 総 数	45,689	2.1	24,216	9,767	14,449	21,473	9,847	11,626

- 注 1) 七会村において10月に実態調査を実施した。
 2) △印は、社会減少率及び転入超過数を示す。
 3) 県総数の転入、転出中には職種による者は含まれていない。

表3 年令階層別転出者数

	総数	0~14歳	15~24歳	25~44歳	45~64歳	65歳以上
総 数	788	66	419	209	70	21
比率(%)	100.0	8.4	53.4	26.6	8.9	2.7
県 内	403	33	183	126	46	15
県 外	382	33	236	83	24	6

2人でなる。

性別では、1.4半期・2.4半期とは反対に今期は女が過半数を占め194人となり、わずかに男を上回った。

また近県への転出状況は東京都が最も多く43%、ついで神奈川県14%、栃木県12%、埼玉県、千葉県、福島県、群馬県となっており、前記以外の道府県へは7%となつている。なお、東京都への転出が過半数を割つたのは今期がはじめてのことである。

3 県外転出者の状況

転出者のうち県外へ転出していく者は49%にあたる38

表 4 近 県 へ の 転 出 状 況

区 分 町村別	県 外 転出者数	東 京 都	神 奈 川 県	千 葉 県	埼 玉 県	栃 木 県	福 島 県	群 馬 県	そ の 他 の 県 外
大 子 町	144	53	19	10	21	16	14	—	11
里 美 村	27	12	6	1	3	—	1	—	4
水 府 村	23	9	3	3	1	5	—	—	2
金 砂 郷 村	23	14	3	2	3	—	—	—	—
緒 川 村	18	6	2	2	3	1	2	—	1
美 和 村	28	10	3	1	2	10	—	—	2
山 方 町	30	16	5	3	—	—	—	—	4
七 会 村	46	23	8	4	3	6	1	—	1
桂 村	15	7	1	—	1	1	2	—	2
御 前 山 村	28	13	3	2	—	8	—	—	1
合 計	382	163	53	28	37	47	21	5	28
比 率	100.0	42.7	13.9	7.3	9.7	12.3	5.5	1.3	7.3

4 転出の理由

前々期は新規卒業による者が全体の38%を占め、前期は"他に職を求めて"が全体の23%を占め最も多くなっていた。

今期は、"他に職を求めて"移動する者が前期同様最も多く全体の30%を占め、前期と比べて多くなっている。

この30%の内訳をみると"生活出来るがもつと収入を

得るため"が125人と最も多く(15.9%)、ついで"親家族と共に暮らすため"32人(4.1%)、"収入が少なく生活が苦しいため"31人(3.9%)、"辺地で生活が不便なため"24人(3.1%)となつている。

全体をとおしてみると、"他に職を求めて"のつぎに、結婚離婚のため190人(24%)、主因者に伴つて125人(16%)となり、以下"新規卒業による就職" "住宅事情" "転勤のため"が主なものとなつている。(表6)

表5 転出の理由

町 村 別	転勤のため		・他に職を求めて							新規 卒業 による 進学	新規 卒業 による 就職	出稼ぎ		住宅 事情	結婚 離婚	その 他	主因 者に 伴つ て	不詳	合計	
	自 ら 希 望 し て	事 業 所 配 換 に よ る	収 入 が 少 く 生 活 が 苦 しい	生 活 で が と つ と 入 る 得 ない	辺 地 で 生 活 が 不 便	教 育 上 の 学 校 が 遠 い	都 合 よ い 学 校 を 望 む	親 家 と も に 暮 らす た め	そ の 他			1年 未 満	1年 以 上							
犬子町	7	14	9	22	6	—	—	—	22	6	6	19	—	3	7	38	15	62	—	236
里美村	—	—	—	5	—	—	—	—	3	3	—	4	—	—	—	19	25	6	—	65
水府村	—	3	2	3	2	—	—	—	2	—	1	4	—	1	5	18	2	18	—	61
金砂郷村	5	2	3	9	5	2	2	—	—	—	—	1	—	—	11	29	4	1	—	67
緒川村	—	—	5	2	—	—	—	—	1	1	2	3	2	1	1	8	—	—	—	31
美和村	—	1	6	5	7	—	—	—	—	—	3	2	—	—	1	14	4	5	—	48
山方町	—	2	3	14	1	—	—	—	—	4	1	—	—	1	10	25	16	18	—	95
七会村	—	—	—	49	1	—	—	—	—	—	1	15	—	—	—	12	6	2	—	86
桂村	—	—	—	5	—	—	—	—	—	7	—	1	—	—	2	14	—	6	—	38
御前山村	—	3	3	11	2	2	1	1	4	—	—	6	—	1	6	13	3	7	—	58
合計	12	25	31	125	24	4	3	1	32	21	14	55	2	7	43	190	75	125	—	785
比率(%)	1.5	3.2	3.9	15.9	3.1	0.3	0.2	0.1	4.1	2.7	1.8	7.0	0.2	0.9	5.5	24.2	9.5	15.9	—	100.0

5 転出者の収入状況

収入については、昭和43年中に得たすべての収入を調べたものである。

転出者785人のうち収入のあつた者は421人であり、これを転出理由別にみると表6のとおりで、"他に職を求

めて"が最も多く全体の44%にあたる184人、ついで結婚離婚27%となつている。

また、収入別にみると、80万円未満の者が全体の47%を占め最も多くなつている。

表6 転出者の収入状況

転出理由	収入のある者					収入なし	合計
	30万円未満	30~60万円未満	60~90万円未満	90~120万円未満	120万円以上		
転勤のため	10	21	5	1	—	37	37
他に職を求めて	107	70	5	2	—	184	237
新規卒業による進学	—	—	—	—	—	—	14
" 就職	—	1	—	—	—	1	55
出稼ぎ	4	2	—	—	—	6	9
住宅事情	7	18	11	4	—	40	43
結婚・離婚	47	64	4	—	—	115	190
その他	7	8	1	—	1	17	75
主因者に伴つて	16	4	1	—	—	21	125
合計	198	188	27	7	1	421	785
比率(%)	47.0	44.7	6.4	1.7	0.2	100.0	

生活水準測定の問題点 (その2)

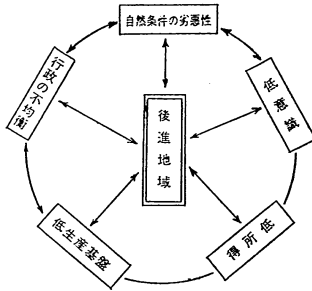
黒沼 稔

前号までの目次

1. 人口移動と生活水準の実態
 - (i) 東京への人口流出地域の実態
 - (a) 人口移動の実態
 - (b) 産業・生活構造の実態

(c) 県内後進地域における悪循環＝以上に指摘した産業・生活構造の実態は、東京への人口流出の顕著な後進県を、県全体として巨視的にみた場合にいちおういえることであるが、これをさらにこまかく検討すると、前記のような指摘があてはまるのは、だいたいにおいて、県内の都市的地域、あるいは都市的地域への通勤または転入が比較的容易な地域であつて、そうでない県内の最後

第1図 後進地域形成要因とその構成因子



備考 静岡県『後進地域をめぐる問題点とその対策』(37.3) q.6

進地域では、転出あるいは所得水準向上の意欲すらもたず、いつまでも低い生活水準のままで停滞している人びとが多い。そこには、あらゆる要因の悪循環がみられるのである。

この点について、静岡県『後進地域をめぐる問題点と対策』は、いみじくもつぎのようにのべている。

「後進地域の劣性要因は、相互に作用し反作用する悪循環のない累積的因果関係にある。すなわち、低生産性は必然的に低所得をまねき、低所得は資本力を弱め、また低意識、労働力の質的低下を助長して、ますます低生産基盤をおしさげる。また、低所得は貧困となり、疾病にかかりやすくなる。そのため、ますます貧困となり、子供の教育、母体保護に無関心となり、優秀な労働力確保を困難とする。優秀な労働力を確保できないから、いよいよ低生産基盤となる。この結果、住民の生活改善意識を阻害し、累積された無知・無関心・諦観はやがて低意識を形成させることになる。そしてこの低意識は、いよいよ低生産・低所得を助長する。さらには、行政が投資しにくい状態をつくり、矛盾を増大させる結果となり、一層、地域の後進性を助長することになる」(第1表を参照)。

このような指摘はさほどにきよくたんな形でなくとも、後進県、とくに最後進県の場合には、ある程度そのままあてはまる面があるのではなからうか。

第1表 後進地域形成の要因

<ol style="list-style-type: none"> 1. 低生産基盤 <ol style="list-style-type: none"> a. 生産要素の悪条件 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="vertical-align: middle;">構成因子</td> <td style="padding-left: 10px;"> 土地——所有の零細性、狭少性、急傾斜地 資本——資本の不足、他地域への流出、非生産財への投入、低回転率 労働——過剰就業、労働力の質的低下、過重労働、低労働生産性、労働力配分の不合理性、低賃金、労働力調達機関の非近代性、雇用労働の不安定 </td> </tr> </table> b. 技術の低さ 	構成因子	土地——所有の零細性、狭少性、急傾斜地 資本——資本の不足、他地域への流出、非生産財への投入、低回転率 労働——過剰就業、労働力の質的低下、過重労働、低労働生産性、労働力配分の不合理性、低賃金、労働力調達機関の非近代性、雇用労働の不安定	<table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="vertical-align: middle;">生産</td> <td rowspan="2" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td>技術教育の欠如、市場性の不足、指導体制の不整備</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: middle;">経営</td> <td>労務管理の非近代性、所有の零細性、低意識</td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> c. 流通機構の不整備 <ul style="list-style-type: none"> 交通・通信網の未整備、市場と遠距離、流通施設不足、指導体制の不整備 2. 低所得 <ol style="list-style-type: none"> a. 低生産基盤 b. 分配の不均衡 	生産	}	技術教育の欠如、市場性の不足、指導体制の不整備	経営	労務管理の非近代性、所有の零細性、低意識
構成因子	土地——所有の零細性、狭少性、急傾斜地 資本——資本の不足、他地域への流出、非生産財への投入、低回転率 労働——過剰就業、労働力の質的低下、過重労働、低労働生産性、労働力配分の不合理性、低賃金、労働力調達機関の非近代性、雇用労働の不安定							
生産	}	技術教育の欠如、市場性の不足、指導体制の不整備						
経営		労務管理の非近代性、所有の零細性、低意識						

低賃金、所有の零細性、利益配分の不合理（分収林、家畜小作、分収林産物、船主と乗子）、労働力調達上の矛盾、低意識

3. 低意識

a. 防衛からくる低意識

b. 他要因に起因する低意識

○人間関係の古さ——所有構造、低所得、封建性、封鎖性、低生産性、過剰人口、宗教、迷信、慣習、家族制度、自然

○諦観——低所得、劣等意識、封建性、宗教、自然

○金銭への過執着——低所得、不事の事態の防破堤（病氣・災害）、自然

○非近代経営——封建性、封鎖社会、慣習、社会性の欠如、自然（所有にたいする財産保持的観念）

○低文化水準——低所得、宗教、慣習、封建性、施設不足、余暇不足、

自然、低教育水準

○低生産意欲——労働力配分の不合理性、慣習、低教育水準、指導不徹底、劣等感、自然、低所得

○食生活改善意欲の欠如——低所得、慣習、自給意識、金への執着、栄養知識の欠如、自然

○衛生思想の欠如——低所得、慣習、封建的家族制度、衛生施設の不足、自然

○教育に対する無関心——低所得、封建的家族制度、過重労働、余暇不足、父兄の低教育水準、自然

○社会保険の未活用——低所得、無知、慣行、雇用者の無理解、行政機関との距離

4. 自然条件の劣悪性

気象、地形、地質の悪条件

備考 静岡県『後進地域をめぐる問題点とその対策』

(ロ) 東京における実態

こんどは、人口移動と生活水準の実態を、人口の受け入れ地である東京の側からみたらどうなっているであろうか。

(a) 東京への人口集中の実態＝東京への人口集中の実態については、すでに詳述されているので、ここでは、人口移動の法則および生活水準と関連ある事項についてのみかんたんに摘記しておくこととする。

ところで、東京への人口集中については、一見、ラベンシュタインの「距離の法則」があてはまるようにも思われるが、実態はあまり単純ではない。人口移動に関する各種統計資料を総合してみると、最近では、東京都への流入人口のなかで、東北地方および九州出身者の比重の増大が目立ち、九州をふくむ近畿以西の地方からの転入の比重がしだいに高まりつつある。また、北海道からの転入もわずかずつ比重を高めているにたいし、北陸・東山・東海の中中部地方各地区からの転入は、横ばい状態である。

また、東京とその隣接3県との関係においては、すでに、いずれの県にたいしても転出超過となっており、東京の外延的拡大＝実質上の東京拡大、すなわち、広域東京の形成傾向が顕著であり、東京への人口集中を云々するにも、また東京における生活水準を問題にする場合にも、この点はもはや無視することができないような事態に立ちいたっている。

(b) 東京の生活水準の実態＝地方の側からみれば、東京は、地方より所得水準および生活水準の高い、そしてまた、より働きがいのある雇用機会の多数存在する場所である、と考えられている。だが、その実態は果たし

てどうであろうか。

たしかに、名目的・平均的な所得水準は高く、したがって、そこには所得水準の「均衡化運動」の法則が働いているように見える。しかし、その所得水準の高さは、必ずしも健全な形における高さではない。岡崎陽一氏は、生活基盤である世帯に、あらゆる面からみて不完全なものが多く、生活基盤のぜい弱な人びとがかなりウェイトを占めていること、また、たとえ就職していても収入の実態が半失業に近く、いわゆるボーダー・ライン層に属する低水準所得階層が非常に多いことを指摘し、「今後問題とすべき点は、大都市（東京）へ入ってきた労働力人口が、はたしてふさわしい地位を占めることができたかどうか、個人的にも社会的にも所得の上昇をもたらすことができたかどうか、ということの解明である」とのべている（岡崎陽一『東京の人口の社会経済的・人口学的構造とその特徴』東京市政調査会首都研究所）。

この実態を明らかにすることはかんたんではないが、明白なのは、東京には予想外に所得のあまり高くない雇用機会（とくに中小企業）が多いこと、住居費・交通費などの基礎的支出が割り高であるうえに随意的（奢侈的）支出促進の刺激が強いため、名目的・形式的所得水準は実質的にはかなり大幅に割り引きして考えなければならないことである。東京が、各種の「過大都市問題」の発生により、各面でいろいろと生活環境が悪化している点をも合わせ考えれば、東京における生活水準が、名目的・平均的な所得額の数字に示されているほど高くない、ということだけはまちがいない。